

(様式3)

校 種	小 ・ 中 どちらかに○	学校番号	6 5	学校名	宇都宮市立田原小学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

## 令和4年度 児童生徒指導に関する取組

### 1 児童生徒指導上の主な実態

#### (1) 問題行動等調査から

- ・昨年度は、問題行動等調査において、「いじめ」として計上した事案としては、1件であった。計上したいじめの態様としては、「仲間外れ」であり、担任の日頃の見取りにより、その兆候を発見した。迅速に関係児童や学級全体への指導を行い、いじめを解消することができた。また、日頃の教育相談や年4回実施している学校生活アンケートにより判明した児童間のトラブルについては、担任が関係児童全員の個別教育相談を行い、問題解決を図り、継続的ないじめの問題とならないようにしてきた。児童から悩みなどの相談があった際には、個別指導及び学級全体への指導も行い、互いの気持ちを考えた言動がとれるよう指導を行い、解決を図った。
- ・暴力や非行等の大きな問題行動を起こす児童はいないが、友達とのトラブルを日常的に起こしたり、授業中離席したりする児童が数名見られた。全教職員の共通理解のもと、学校生活のルールを守ることの大切さを指導している。
- ・昨年度は、新型コロナウイルス感染症関連の対応により、出席停止（またはそれに準ずる欠席）を余儀なくされた児童や、病気療養により入院した児童がいたものの、不登校を理由とする長期欠席児童数は0名であった。

#### (2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・あいさつやマナーに関しては、学年が進むにつれて、その必要性を認める児童が多くなってきている。高学年を中心に、校内では、礼儀正しく元気なあいさつが活発となってきた。一方で、昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、大きな声であいさつすることができない状況の中、田原小独自の「明るく、先に、顔をみながら」の「あさがおあいさつ運動」に、目礼・低頭を追加した「あさがおもって運動」を推進してきた。学校教育マネジメント調査の結果では、時と場に応じたあいさつをしているかを問う質問で、指標である児童の肯定割合90%を5.5ポイント上回り、地域住民の肯定的回答も昨年度より7ポイント高く8割を超えることができた。一方で、保護者の肯定割合が75.3%であり、昨年よりも10ポイント近く下回っている。また、学校独自に児童指導部が年度末に実施した保護者アンケートにおいても、「元気いっぱい明るいあいさつ」を期待する回答が寄せられている。そこで、学級活動による話合いや道徳の授業、児童指導主任による講話といった従来の指導に加えて、児童会を中心としたあいさつ運動やアンケート調査等の実施を通して、あいさつの大切さや「相手に気持ちが伝わるあいさつ」について、児童が主体となって考え、よりよく変容していける指導を目指していく。
- ・学校教育マネジメント調査の結果では、きまりやマナーを守って生活をしているかを問う質問で、指標である児童の肯定割合90%を4.4ポイント上回った。また、保護者の肯定割合は9割を超えるとともに、地域住民の肯定割合は100%であった。今年度も、「田原小よい子の1日」に関

する自己評価アンケートを実施し、指導の重点を決めて週目標に設定したり、全校集会の講話において取り上げたりして、重点目標を意識しながら学校生活を送れるよう指導していきたい。

### (3) 学校生活の状況から

- ・新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと守り、校舎内外で、落ち着いて生活することができている。
- ・同学年同士ばかりでなく、異学年児童とのつながりも強く、仲よく遊んだり助け合ったりすることができる。
- ・基本的生活習慣がまだ十分に身に付いていない児童が見られる。
- ・指示されたことに対しては、やり遂げることができるが、主体的に行動することが苦手な児童が見られる。
- ・明るく素直であるが、自ら考え、正しい判断をして行動することが苦手な児童が見られる。
- ・授業中に離席したり、他害行動をしたりする児童が見られる。
- ・昨年度は、学校生活上の指針「田原小よい子の1日」の中で、「友達や先生、地域の人に時と場に合ったあいさつ（元気なあいさつ、目礼や低頭）をします」と「廊下や階段は、右側を静かに歩きます」の2つを、重点項目として指導してきた。年度内の児童自身による振り返りでは、「友達や先生、地域の人に時と場に合ったあいさつ（元気なあいさつ、目礼や低頭）をします」の肯定割合が9割を超えているものの、保護者や地域住民からは、「さらに元気なあいさつを」と改善を求める回答が寄せられている。また、「廊下や階段は、右側を静かに歩きます」の中・高学年の振り返りでは否定的回答が約24%となっている。学校のきまりやルールに関しては、意識をして守っている児童が多いが、教師の見ていない場所や人目の少ない場所では、守れていない児童がいると思われる。R4年度は、児童自身が判断力を働かせ、よりよい生活態度を意識できるよう、重点目標を設定していく。

## 2 今年度の重点目標

自らの判断をもとによりよい生活を求め、  
自他のよさを認め合いながら生活できる、思いやりあふれる児童の育成

## 3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和4年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、不登校対策における取組のうち重点は文頭に○）

### (1) 基本的生活習慣の育成

- ・地域学校園で児童生徒合同による小中あいさつ運動強化週間の実施（6月,11月）
  - 児童指導のきまり「田原小よい子の1日」を基本として、家庭との共通理解のもと、児童の基本的生活習慣の育成を図る。
  - 児童会主体の計画にそって月に1回、重点的に朝のあいさつ運動を行い、あいさつのできる児童の育成を図る。
- ★学級活動や道徳科を通して行う、時間やマナーを守って学校生活を送ることへの指導（始業チャイムで準備・着席を完了、授業開始、歩いて右側通行、静かに移動）
  - 豊かな感性を育むための体験活動や読書活動の充実

(2) いじめゼロに対する取組, 不登校対策

□いじめ根絶強化月間の実施(5月, 9月)

★児童会主体で行う「いじめゼロ集会」の実施(9月)

★道徳科におけるいじめを題材とした授業の実施

□児童会を中心に「田原小いじめゼロ・スローガン」の募集, 掲示

★いじめ根絶を目指した「学校生活アンケート」の定期的実施(年4回実施, アンケートの結果, いじめとみられる事例については, 学校だよりにおいて保護者に情報公開)

○校内対策委員会を機能させた組織的な対応(不登校・いじめ問題)

○困難な悩みやストレスを抱えたとき, 誰かに相談し SOS を出すことのできる環境を整える。

(3) ルールやマナーを守る態度の育成

★児童の生活態度の見取りと「田原小よい子の1日」の昨年度の児童の振り返り, 保護者に実施した「児童の学校生活のためのアンケート」の結果をもとに, 「田原小よい子の1日」の重点目標を設定し, その具体について児童と話し合いながら週目標の設定やルールづくりを行う。

(R4年度は, 「気持ちの伝わるあいさつ」「落ち着いた生活態度」の二つを重点目標とする。)

・4月に学級活動の時間を使い, 全児童のルールやマナーへの共通理解を徹底する。

★学級懇談会やPTA全体会などの機会に, 保護者への共通理解を図る。

・職員室入室時のあいさつの仕方の指導

□携帯電話やメールの弊害や危険性, 正しい使い方やマナーの指導などの情報モラル教育を総合的な学習, 学級活動, 道徳の時間に全学年で年間2回以上行うとともに, 集会時に講話を行って, デジタル・シティズンシップを育成する。

(4) 互いのよさを認め合い, 尊重し合える集団づくり

□互いの立場を理解し合い, 協力して活動しようとする意欲の向上

(縦割り班活動や兄弟学年, 異年齢集団における活動)

○Q・Uの結果を生かした学級経営

★教職員と児童及び児童相互の好ましい人間関係の構築

・教職員と児童が遊べる時間の確保(ロング昼休みの活用)

(5) 個に応じた指導の充実

・問題行動の低年齢化への対応

★校内対策委員会による組織的指導の推進, 保護者への積極的働きかけ, SCなど関係諸機関との積極的連携を図る。

○教育相談の実施(6月, 11月)

★保護者との連携を密にした不登校児童や不登校傾向の児童に対する支援体制の充実

□問題行動や配慮を必要とする児童の情報交換会の定期的な実施(毎月)

○欠席支援状況シートによる細かい児童の状況チェック

□校内児童指導連絡会において全教員の共通理解と指導方法の検討(5月, 1月)

(いじめアンケートの結果・教育相談の結果・Q・U検査の結果・個人懇談の結果から総合的に検討する。)

○別室登校支援や一人一台端末を活用した連絡・学習支援など, 個に応じた教育機会の確保

(6) 家庭・地域、関係機関などとの連携

★「あいさつ運動」を通して、多くの保護者や地域の人とふれあう機会を設け、「あいさつ」や接し方のマナーを育成する。

・「田原小よい子の1日」「学習のきまり」の周知や「児童の学校生活のためのアンケート」の実施を通して、学校と保護者の共通理解・協力のもとに児童が生活のきまりや学習のきまりに基づいた規律ある自主的行動がとれるようにする。

★お世話になった方への「感謝の会」を児童会が中心となって開き、「感謝する気持ち」を醸成する。

□携帯電話やパソコンにおけるメールの使い方やマナーについて、学級懇談や家庭訪問、個人懇談での話合いや、ケータイ・スマホ出前講座への参加呼び掛けやメール配信などを通して、情報モラル教育の推進に対する理解が高まるようにする。

